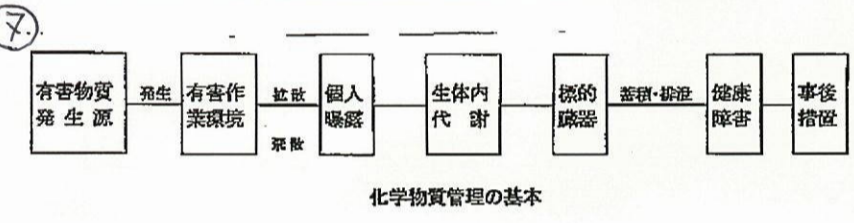


6

(2) 曝露限界
 物理的・化学的有害要因の曝露による健康障害防止のため、ある基準値以下に曝露を抑える目標を定めたもの。
 ① TLV (Threshold Limit Value 曝露限界値)：米国産業衛生専門家会誌(ACGIH)が提案したもの。すべての労働者が毎日繰り返し曝露されても有害な影響を受けないと信じられる条件。ただし、個人の感受性により例外がある。TLVには時間加重平均(TLV-TWA)、短時間曝露限界(TLV-STEL)、天井値(TLV-C)がある。
 ② 許容濃度：日本産業衛生学会許容濃度等委員会が勧告したもの。時間加重平均と最大許容濃度(天井値)よりなる。
 ③ 管理濃度：作業場における気中有毒物質濃度を行政的立場から作業場全体として規制したもので、作業環境管理の良否を判断するもの。ただし、時間の概念がないのが特徴。
 ④ 生物学的モニタリング：生体試料(血液、尿、糞便、毛髪、爪、唾液、乳汁、呼気等)の検査により体内進入の程度、影響の程度を把握し、これを気中濃度、皮膚接触を含む作業環境への曝露監視に利用するものである。有害物質それ自身またはその代謝物の量や反応物質の量を知ることにより個々の作業者の有害物質への曝露総量もしくは体内進入量および個々の作業者の有害物質への感受性に関する情報を知ることが出来る。

生物学的モニタリングの例

化学物質	測定対象物	試料採取時のタイミング
アセトン	尿中アセトン	シフトの終わり
一酸化炭素	血中COヘモグロビン	シフトの終わり
キシレン	尿中メチル馬尿酸	シフトの終わり
水銀	尿中総無機水銀	始業前
ステレン	尿中マンデル酸	シフトの終わり 次のシフトの開始前
テトラクロロエチレン	尿中トリクロロ酢酸	週の終わり
トルエン	尿中馬尿酸	シフトの終わり
鉛	血中鉛	随時
ノルマルヘキサン	尿中2,5-ヘキサンジオン	シフトの終わり



8

リスク見積り及びそれに基づく優先度の設定方法の例

- 負傷又は疾病の重篤度
 「負傷又は疾病の重篤度」については、基本的に休業日数等を尺度として使用するものであり、以下のように区分する例がある。
 [1] 致命的：死亡災害や身体の一部に永久損傷を伴うもの
 [2] 重大：休業災害(1か月以上のもの)、一度に多数の被災者を伴うもの
 [3] 中程度：休業災害(1か月未満のもの)、一度に複数の被災者を伴うもの
 [4] 軽度：不休業災害やかすり傷程度のもの
- 負傷又は疾病の可能性の度合
 「負傷又は疾病の可能性の度合」は、危険性又は有害性への接近の頻度や時間、回避の可能性等を考慮して見積もるものであり、以下のように区分する例がある。
 [1] (可能性が)極めて高い：日常的に長時間行われる作業に伴うもので回避困難なもの
 [2] (可能性が)比較的高い：日常的に行われる作業に伴うもので回避可能なもの
 [3] (可能性が)ある：非定期的な作業に伴うもので回避可能なもの
 [4] (可能性が)ほとんどない：まれにしか行われない作業に伴うもので回避可能なもの
- リスク見積りの例
 リスク見積り方法の例には、以下の例1~3のようなものがある。

例1:マトリクスを用いた方法

重篤度「②重大」、可能性の度合「②比較的高い」の場合の見積り例

負傷又は疾病の発生可能性の度合	負傷又は疾病の重篤度			
	致命的	重大	中程度	軽度
極めて高い	5	5	4	3
比較的高い	5	4	3	2
可能性あり	4	3	2	1
ほとんどない	4	3	1	1

リスク	優先度	対応策
4~5	高	直ちにリスク低減措置を講ずる必要がある。措置を講ずるまで作業停止する必要がある。十分な経営資源を投入する必要がある。
2~3	中	速やかにリスク低減措置を講ずる必要がある。措置を講ずるまで使用しないことが望ましい。優先的に経営資源を投入する必要がある。
1	低	必要に応じてリスク低減措置を実施する。

9 特化物作業チェックリスト

区分	チェックポイント	良否	改善事項
環境管理	設備・環境		
	環境測定		
	自主検査等		
作業管理	資格等		
	作業方法		
	職場環境		
健康管理	健康診断		

10 鉛作業チェックリスト

項目	チェックポイント	良否	改善事項
環境管理	設備・環境		
	環境測定		
	自主検査		
作業管理	資格等		
	作業方法		
	職場環境		
健康管理	健康診断		